

男女共同参画社会と建築学 特別研究委員会報告



2007年3月20日

男女共同参画社会と建築学特別研究委員会委員長
和洋女子大学家政学 教授 中島明子

活動の柱

1 公開研究会、シンポジウムによるキャンペーン

2005年 9月20日 第1回公開研究会

2005年12月09日 第2回公開研究会

2006年 4月21日 第3回公開研究会

2006年 5月12日 第1回シンポジウム

2006年 6月10日 第2回シンポジウム

2006年 9月08日 建築学会大会PD

2007年 3月16日 最終報告・日英国際シンポジウム

2 調査研究

建築系、住居系大学女性卒業生調査

建築の民間セクターに関する調査

大学等における男女共同参画調査

公開研究会

2005年9月20日 第1回公開研究会

内閣府男女共同参画局局长 名取はにわ氏

2005年12月 9日 第2回公開研究会

「建築分野における教育・雇用の現状と課題」

パネリスト

松川淳子・水津牧子・武井佐代里・中谷礼仁

2006年 4月21日 第3回公開研究会

笠嶋淑恵委員講演とプレゼンテーション

第3回公開研究会

男女共同参画社会の価値の 多元化に応える建築家のス タンスの拡大

- 空間の性格から考える -

講師

笠嶋淑恵委員

日本建築学会「男女共同参画社会における建築学」に関する特別研究委員会 主催

公開研究会

男女共同参画社会の価値の多元化に応える 建築家のスタンスの拡大

—空間の性格から考える—

開催主旨

女性の社会進出は、「自分らしさ」を求める生き方、自我意識の広がり/進化を背景にしており、価値の一元化から価値の多元化に向かう方向にあるといえましょう。

そうした考えのもとに、「空間の微妙で豊かな性格とひとの感覚系との応答」をテーマに数々の建築作品を手掛けている笠嶋淑恵氏(本委員会委員)を講師に迎え、自我意識の広がりを背景に、自分の求める質、独自の課題を持ち、社会的存在意義を確かめながら「各自の思索拠点で仕事をしている女性建築家の仕事」について、語って頂きます。

Architertural Institute of Japan



日時：2006年4月21日(金) 18:30-20:30

会場：建築会館3階会議室(東京都港区芝5-26-20)

内容：「男女共同参画社会の価値の多元化に応える
建築家のスタンスの拡大—空間の性格から考える—」

講師：笠嶋淑恵氏(建築家・笠嶋建築工房代表)

■プロフィール <http://www.hat.hi-ho.ne.jp/kasajima-yoshie/>
1950名古屋生まれ 72日本大学理工学部建築学科卒業。坂本虎夫建築研究所、市浦都市開発建築コンサルタンツ等を経て、一級建築士事務所笠嶋建築工房開設。86以来 R シュタイナー人智学に基づく幼稚園、学校、高齢者施設、病院等を西ドイツ、スイス、スウェーデンにて視察 87から 6期に渡り、やまさと保育園/シュタイナー幼児教育理念に基づく改修設計。83、89、93、94、95中郡建築賞受賞
現在 愛知淑徳大学、名古屋芸術大学、名古屋市立大学にて非常勤講師

■最近の主な建築作品：聖テレジア幼稚園改修(写真)、やまさと保育園改修、あげつまクリニック

定員 50名(申込順)

参加費 会員500円 登録メンバー500円 会員外500円 学生無料

申込方法：催し物名称、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレスを明記のうえE-mailでお申込下さい。定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡いたします。

申込先：事務局研究事業部 森田 TEL 03-3456-2057 E-mail: morita@aij.or.jp

Working together, more comfortably, for everyone

第1回シンポジウム

2006年5月12日

時の風を受けとめて 男女共同参画による 建築デザインの 新たな可能性

パネリスト
長谷川逸子
篠原聡子
八木佐千子

コーディネーター
工藤和美

日本建築学会「男女共同参画社会における建築学」に関する特別研究委員会 主催

第1回特別委員会シンポジウム

時の風を受けとめて

—男女共同参画による建築デザインの新たな可能性—

21世紀の我が国では、男女共同参画の視点にたった社会づくりが進められています。これまで、建築分野では、教育の場、職業の場において男性の比重が圧倒的に高く、これからの時代へ向け取り組むべき課題は山積しています。しかし、昨今の建築界に目を転ずれば、女性建築家あるいは男女のユニットによる建築家の活躍が注目を集めていることも事実です。教育の場における学生数の差が小さくなる中、時代は女性との共働へと向かって、追い風が吹き始めているのかもしれない。

本シンポジウムでは、時の風を受けとめて活躍する第一線の女性建築家を迎え、変化しつつある社会への期待を問います。建築の教育や社会における経験を踏まえて、続く建築家に何を求め、何を期待するのか。自由闊達な議論の中から、建築界における男女共同参画の実現への展望と建築デザインの新たな可能性を探ります。

Architeturral Institute of Japan



日時:2006年5月12日(金)14:00-17:30

会場:建築会館ホール(港区芝5-26-20 JR田町駅より徒歩2分・都営浅草線三田駅より徒歩1分)

パネリスト:

長谷川逸子(建築家・関東学院大学)

篠原聡子(建築家・日本女子大学)

八木佐千子(建築家) ほか

コーディネーター:

工藤和美(建築家・東洋大学)

プログラム:

14:00 開会

14:05-14:15 趣旨説明

14:15-15:45 各パネリスト発言

15:45-16:00 休憩

16:00-17:20 ディスカッション

17:20 まとめと質疑

17:30 終了

司会:郷田桃代(東京電機大学)

記録:阿部順子(首都大学東京) 近藤未佳子(東京大学)

定員 180名

参加費 会員1,500円 登録メンバー1,700円 会員外2,000円 学生500円

申込方法:催し物名称、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレスを明記のうえE-mailでお申込下さい。

定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡いたします。

申込先:事務局研究事業部 森田 TEL 03-3456-2057 E-mail: morita@aij.or.jp

Working together, more comfortably, for everyone

2006年6月 0日 第2回シンポジウム

女性と建築：獲得してきた職場と今後の進路
ー男女共同参画の可能性を求めてー

日時：6月10日（土）13時00分～17時00分
 会場：武庫川女子大学 甲子園会館 西ホール
 交通：JR甲子園口駅下車、徒歩10分（西宮市戸崎町）

■12:00～12:50 甲子園会館（旧甲子園ホテル）見学ツアー 定員50名
 11:50 甲子園会館ロビー集合

■13:00～17:00 公開シンポジウム 定員125名

趣旨説明 柳澤 潤（武庫川女子大学）
 第1部 職業実態のレポート 司会 奥 桂子（大阪芸術大学）
 第2部 パネルディスカッション
 建築分野における女性の職能の行方 司会 藤田智子（大阪教育大学）
 第3部 全体討議 司会 服部尚生（千葉大学）

■17:10～18:00 交流会 定員30名

■参加費：シンポジウム 会員 1000円、賛助メンバー 1200円、
 会員外 1500円、学生 500円
 交流会 学生以外 500円、学生 300円

■申込方法：催し物名称と①見学ツアー②シンポジウム③交流会各々の参加の有無、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレスを明記の上E-mailで、見学ツアーのみの参加はできません。定員に達した場合は、参加できない方のみ連絡します。

■申込問合せ：日本建築学会 森田 T: 03-3456-2057 E: morita@aij.or.jp
 ■主催 団：「男女共同参画社会における建築学」に関する特別研究委員会

神戸新聞 060601 朝刊



シンポジウムの準備を進める榊原教授（左）と福本教授＝西宮市戸崎町、武庫川女子大

建築の分野にも 男女共同参画を

働き方を見直す場に

武庫川女子大
10日にシンポ

男性の比重が高い建築「よ」と、十日、武庫川女子大の分野で、男女共同参画シンポジウムが開かれる。女子大初の新設した同大の教授らも必要を取り組みを考え「宮市戸崎町」で「女性と新設した同大の教授らも

企画にかかり、「女性働く環境に目を向けること、男女双方の働き方を見直す場にて「ば」と参加を呼びかけている。日本建築学会の「男女共同参画社会における建築学」に関する特別研究委員会」が主催。同委員会メンバーの榊原潤・同大教授によると、二〇〇三年度の建築系学科卒業生のうち、女性は一割程度。ただ、建築分野で働く女性は少し

ずつ増えている。「生活者の視点や細部への気配り、豊かな感性など、女性の特性が生かされた事例も多い」と同教授。一方、公共工事の削減などで業界の環境が厳しさを増す中、育児休暇が取れず、働き続けることが難しい例も少なくないという。

シンポジウムでは、家電製品の開発やコンサルタントとして働く女性らが建築に関連した職場の実態を報告。セネコン勤務の榊原や住宅を手がける女性らによるパネル討論もある。午後一時から、参加費千五百円（学生五百円）。申し込みは同学会ホームページで。アドレスはmorita@aij.or.jp（新開真理）

2006年9月8日 建築学会大会PD

第1部 調査中間報告

建築系・住居系学科女子卒業生調査

大阪市立大学 小伊藤亜希子

企業における男女共同参画の取組み実態と課題

東京大学大学院 近藤未佳子

第2部 建築分野における女性のロールモデルと 男女共同参画への可能性

パネリスト

服部岑生・八藤後猛・野口孝博・塩満典子・

郷田桃代・園田真理子

司会 西出和彦・水沼淑子

記録 阿部順子

2007年3月16日 最終報告・日英国際シンポジウム

日本建築学会「男女共同参画社会における建築学」に関する特別研究委員会 主催

特別委員会最終報告・日英国際シンポジウム

建築分野の革新にむけて

—男女共同参画への視座と提言—

21世紀のわが国では、男女共同参画の視点にたった社会制度の見直しや意識改革、雇用における男女の均等な機会と待遇の確保等が図られようとしている。建築分野においても、男女共同参画社会の形成に向け、具体的な施策を推進していかなければならない。

本シンポジウムでは、イギリス王立建築家協会(RIBA)における男女共同参画についての講演を行い、国際社会における建築分野の取り組みを紹介するとともに、本特別委員会の活動最終報告として、日本の建築分野における男女共同参画に関する実態の報告と推進のための提言を行う。

日時：2007年3月16日(金)13:00-17:00

会場：建築会館ホール(港区芝5-26-20 JR田町駅より徒歩2分・都営浅草線三田駅より徒歩1分)

Architertural Institute of Japan

プログラム:

開会 13:00-13:15

特別委員会委員長 中島明子(和洋女子大学)
内閣府男女共同参画局局长 坂東久美子

第1部 13:15-14:45

基調講演「イギリス王立建築家協会(RIBA)における男女共同参画の取り組み」
Ann de Graft-Johnson&Sandra Manley(theUniversity of the West of England),
Karen Rogers(RIBA)

休憩 14:45-15:00

第2部 15:00-16:50

特別委員会最終報告 『日本の建築分野における男女共同参画に関する実態と提言』
挨拶 日本建築学会会長 村上周三(慶応義塾大学)

(1)実態報告

建築系・住居系学科女子卒業生調査 小伊藤亜希子(大阪市立大学)
民間セクター調査 近藤未佳子(東京大学)
大学教育・研究調査 園田真理子(明治大学)

(2)特別委員会提言案と討論

閉会 16:50-17:00

服部岑生(千葉大学名誉教授)

懇親会 17:15-18:30 於 アゴラ

定員 180名

参加費 会員1,500円 登録メンバー1,700円 会員外2,000円 学生1000円

申込方法:催し物名称、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレスを明記のうえE-mailでお申込下さい。
定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡いたします。

申し込み:事務局(〒100-0001 東京都千代田区千代田1-2-2 TEL:03-2456-2067 E-mail:myrita@aia.or.jp)

Working together, more comfortably, for everyone

挨拶

内閣府男女共同参画局局长 坂東久美子氏

第1部

基調講演

「RIBAにおける男女共同参画の取り組み」

Ann De Graft-Johnson、Sandra Manley
Karen Rogers

第2部 特別委員会最終報告と提言

建築系・住居系学科女子卒業生調査
大阪市立大学 小伊藤亜希子

民間セクター調査

東京大学大学院 近藤未佳子

大学教育・研究調査

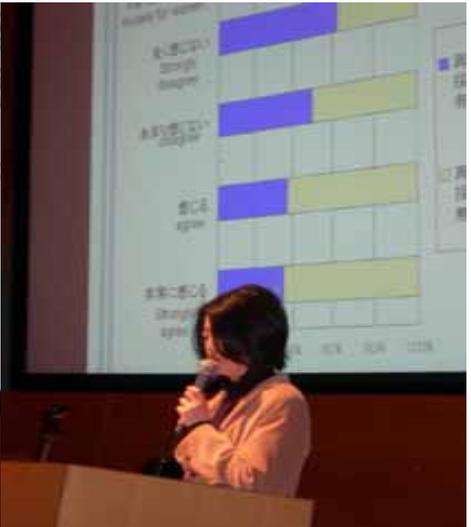
明治大学 園田真理子

特別委員会提言案

中島明子

討論

まとめ 服部岑生



建築分野における男女共同参画を推進するための 提言案(15の提言と5つの行動計画)の主旨

ワークライフバランスの確保

建築の創造・改善にかかわる全ての人々が、仕事と家庭と、余暇・地域生活をバランスよく行うことにより、より豊かな生活空間の実現を可能にする。

多様性Diversityの確保

そのためにも、生活空間の多様な発注者、使い手・住み手に対応した、多様なつくり手を確保すること。

新たな「男女共同参画推進委員会」の 活動に向けての課題

1. 「提言案」の吟味と公表
2. 男女共同参画学協会への加盟
3. 建築分野における男女共同参画事業の
表彰
4. その他